

環境共生資源学特論実験 (2 単位)

担当者氏名 鈴木伸一

◆学習・教育目標 (到達目標を記載)

地球環境問題の世紀ともいわれる現代社会において、自然環境と生活環境の調和的整備が緊急の課題である。本特論実験では、人間と環境・自然との共生をテーマにその実際的方法をさぐる。全ての生物の生活基盤としてきわめて重要な「植生」を環境共生資源として取り上げ、その再生・管理の実践現場の観察・調査をとおして、資源としての植生の適切な利用を知って理解し、それぞれの事例についての評価を行い、今後の生活環境整備に対する植生利用の可能性を考察する。

◆取り扱う領域 (キーワードで記載)

<u>自然再生</u>	<u>環境保全林</u>	<u>生態学的植栽</u>	<u>郷土樹種</u>
<u>潜在自然植生</u>	<u>明治神宮</u>	<u>自然林</u>	<u>植生調査</u>

◆授業の進行等について

	テーマ	内容	準備学習(予習復習)等の内容と分量
1	自然林の観察・調査(第1~3週)	・植生生態学的方法に基づいて、実地に植生の観察および調査方法を学習し、植生の把握方法を修得する。	◎授業は基本的に集中授業で実施し、学外野外実習を行う。◎調査方法のプリントと世田谷キャンパス構内での事前学習(予備実地調査)。◎現場における植生や植物を視る目・同定能力、自然に対する洞察力を養い、植生の質を見抜く感性を身につけることを狙いつけている。
2	二次林の観察・調査(第4~6週)	・人為的干渉や影響の異なる各森林タイプについて、相観・構造・種組成などの観察・調査。	
3	植栽林の観察・調査(第7~9週)	・場所は明治神宮の社叢林、目黒区白金台の自然教育園の森、近郊の里山などを計画している。	
4	環境保全林の観察・調査(第10~13週)	・植栽適正樹種の選定や樹種毎の植栽配分などについて、野外実習で得られたデータを基にした演習を行う。	
5	植生生態学的手法に基づく森づくりの演習(第14~15週)		

◆教科書及び資料 (授業前に読んでおくべき本・資料)

書名/著者/発行所(発行年)

瓦礫を活かす「森の防波堤」が命を守る/宮脇昭/学研新書(2011年)

◆授業をより良く理解するために便利な参考書・資料等

書名/著者/発行所(発行年)

植生景観とその管理/中村幸人監修・日本植木協会(編)/東京農業大学出版会(2014年)

◆評価の方法(レポート・小テスト・試験・課題等のウェイト)

成果レポート(60点)とプレゼンテーション(40点)をもとに評価する。

◆オフィスアワー

毎週木曜日の午後、研究室で質問等を受け付ける。

◆その他受講上の注意事項

フィールド活動となるので、野外で行動できる身支度でのぞむこと。